

1 新生児疾患と検査所見の組み合わせで**不適切**なのはどれか。

- a 鎖 肛-----coil-up sign
- b 壊死性腸炎-----腸管壁内ガス像
- c 胎便性腹膜炎-----石灰化陰影
- d 先天性十二指腸閉鎖-----double bubble sign
- e 新生児呼吸窮迫症候群-----air bronchogram

2 正しい組み合わせはどれか。

- a Alzheimer型認知症 -----prion蛋白
- b 脳血管性認知症-----リボ蛋白
- c Lewy小体認知症 ----- α -synuclein蛋白
- d 前頭側頭型認知症-----amyloid- β 蛋白
- e Creutzfeldt-Jakob病 -----Tau蛋白

3 湿疹と誤診されやすいのはどれか。2つ選べ。

- a Paget病
- b 菌状息肉症
- c 有棘細胞癌
- d 悪性黒色腫
- e ケラトアカントーマ

4 発症直後の急性肺血栓塞栓症の治療として正しいのはどれか。

- a 高圧酸素療法
- b ヘパリンの点滴投与
- c ワルファリンの内服
- d ステロイドの点滴投与
- e エビネフリンの皮下注射

5 四肢末梢が温かく湿潤な急性心不全患者に適用すべき治療はどれか。

- a ドブタミン
- b ノルアドレナリン
- c ニトログリセリン
- d 大動脈バルーンパンピング
- e β 遮断薬

6 直腸癌について正しいのはどれか。

- a 腫瘍マーカーはCA12-5である。
- b 肉眼所見は大部分が浸潤型である。
- c 自動吻合器は低位前方切除術に有用である。
- d 肺転移があれば外科的切除の対象とはならない。
- e 癌によるイレウスは、一期的手術が原則である。

7 脾腫瘍について誤っているのはどれか。

- a 脾管癌が最も多い。
- b ガストリノーマの過半数は悪性である。
- c 脾癌の診断時、80%は手術適応である。
- d ゲムシタビンは、脾癌の化学療法に有効である。
- e CT上low densityの腫瘍と尾側脾管の拡張が特徴的である。

8 初期治療として正しい組み合わせはどれか。

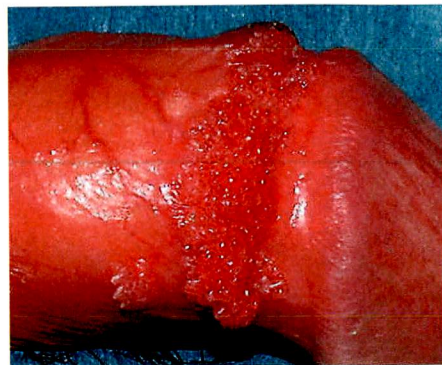
- a 骨盤骨折-----頻回の骨盤動揺性チェック
- b 切断指-----ドライアイスによる保冷処置
- c 腹腔内臓器脱出-----生食ガーゼによる直接被覆
- d 開放性気胸-----三辺テーピングによる創閉鎖
- e 腹部穿通性異物-----異物抜去した後に圧迫止血

9 サラセミアについて正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 血管内溶血
- b 血清鉄減少
- c 標的赤血球の出現
- d 正球形正色素性貧血
- e HbA₂およびHbF(%)の増加

10 陰茎腫瘍を示す。正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 男性不妊の原因となる。
- b 冷凍凝固により治療される。
- c 経過観察により自然寛解する。
- d 陰茎切断術が標準の治療である。
- e ヒト乳頭腫ウイルスの感染である。



陰茎腫瘍

11 子宮頸癌 I a期について正しいのはどれか。

- a 子宮頸癌の50%を占める。
- b I a1期は間質浸潤の深さが5 mm以内である。
- c I a1期での骨盤リンパ節転移率は8 %前後である。
- d I b期以上の患者層に比較して高齢者が多い。
- e 脈管侵襲があっても進行期は変更されない。

12 治療薬との組み合わせで正しいのはどれか。

- a 本態性振戦-----プロプラノロール
- b Huntington病-----TRH
- c Parkinson病 -----リルゾール
- d Machado-Joseph病 -----ハロペリドール
- e 筋萎縮性側索硬化症-----ニフェジピン

13 原発性副甲状腺機能亢進症の血液検査所見で低値を示すのはどれか。2つ選べ。

- a ALP
- b リン
- c カルシウム
- d intact PTH
- e 重炭酸イオン

14 高尿酸血症の治療で正しいのはどれか。

- a 薬物治療が第一選択である。
- b 短期間で尿酸値を正常化する。
- c 尿のアルカリ化は有効である。
- d 痛風発作中に尿酸値を低下させる。
- e 痛風発作がなければ治療は不要である。

15 免疫不全症候群のうち、液性免疫が障害されるのはどれか。

- a 慢性肉芽腫症
- b DiGeorge症候群
- c 成人T細胞性白血病
- d 後天性免疫不全症候群 (AIDS)
- e Bruton型X連鎖性無ガンマグロブリン血症

16 C型肝炎ウイルスについて正しいのはどれか。2つ選べ。

- a DNAウイルスである。
- b エンベロープを持つ。
- c 6つの遺伝子型がある。
- d 糞口感染をおこす。
- e 弱毒生ワクチンがある。

17 病原体と抗菌薬の組み合わせで正しいのはどれか。

- a *Chlamydia pneumoniae* -----第3世代セフェム系
- b *Orientia tsutsugamushi* -----カルバペネム系
- c *Mycoplasma pneumoniae* -----マクロライド系
- d *Plasmodium malariae* -----ペニシリン系
- e *Legionella pneumophila* -----グリコペプチド系

18 有機リン中毒でみられないのはどれか。

- a 縮瞳
- b 流涎
- c 流涙
- d 発汗停止
- e 気道分泌亢進

19 乳房温存術後の放射線治療中の放射線皮膚炎に対する処置として適切なものはどれか。

- a アズノール軟膏の塗布
- b 毎日消毒を行う
- c ステロイドローションの塗布
- d 広域スペクトルの抗菌薬の内服
- e 温湿布の貼付

20 37歳の初産婦。妊娠40週で3,600gの児を経産分娩した。分娩直後より拍動性、鮮紅色の出血を認める。胎盤はまだ娩出していない。血圧100/70、脈拍80/分で子宮底部は臍下3横指の位置に触れ、腹部に圧痛はない。

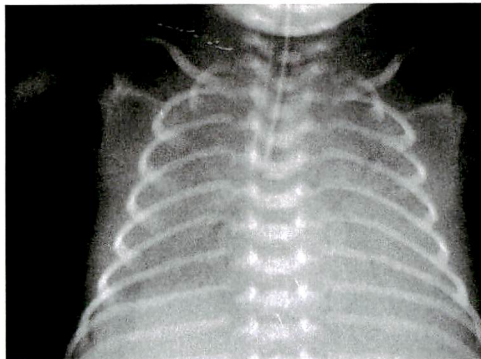
出血原因として考えられるのはどれか。

- a 弛緩出血
- b 癒着胎盤
- c 子宮破裂
- d 頸管裂傷
- e 第4度会陰裂傷

21 出生直後の新生児。在胎28週、出生体重1,120 gで出生した。Apgarスコア6点（1分）。保育器に収容したが、多呼吸、陥没呼吸、呻吟が続いていた。胸部エックス線写真を示す。

正しいのはどれか。

- a 輸液は必要ない。
- b 陽圧換気が有効である。
- c 気管洗浄が有効である。
- d 酸素投与は悪化をまねくので禁忌である。
- e 代謝性アルカローシスの補正が必要である。



胸部エックス線写真

22 78歳の男性。庭木の手入れをしていたときに誤って転倒し、大腿骨頸部骨折と診断され、手術目的に整形外科病棟に入院となった。定年退職後は自宅で過ごし、生活は自立し、会話なども問題はなかった。精神疾患の既往や薬物・アルコールの乱用歴もない。入院当日の深夜に、「ここはどこなんだ?」「明日は仕事だから帰る」などと大声を出して興奮した。周囲の者には見えないが、「そこにある大きな木の枝を切らなくてはいけないのだ」と盛んに手を動かしている。数時間そのような状態が続き、その後入眠した。翌朝覚醒した際には見当識なども問題なく、落ち着いて話をしているが、昨夜のことは覚えていないという。

考えられるのはどれか。

- a 酩酊
- b 昏迷
- c せん妄
- d 偽認知症
- e 入眠時幻覚

23 26歳の男性。4か月前より消防士として勤務。2か月前、消火活動中に炎に巻き込まれ全身熱傷を負い、入院治療を受けている。家族面会や医師の診察時、表情に乏しく反応が鈍い。一方、物音に過敏で、負傷当時の話題を避け、火事の悪夢を見てうなされる。

診断として正しいのはどれか。

- a うつ病
- b 神経衰弱
- c ガンザー症候群
- d 急性ストレス反応
- e 外傷後ストレス障害

24 35歳の男性。身長175cm、体重92kg。日中の眠気を主訴に来院した。5年前まで日中の眠気を自覚することはなかったが、最近では電話中に居眠りをしてしまうことがある。また、数年前に転職し、その後、徐々に体重が増加し、現在までに20kg増加した。

まず行うべき検査はどれか。

- a 心電図検査
- b 胸部CT検査
- c 頭部MRI検査
- d スパイロメトリ
- e ポリソムノグラフィ

- 25 50歳の男性。5日前から37.5℃の発熱と咳嗽があり、市販のアセトアミノフェン含有感冒薬を2日間内服したところ、右前腕に境界明瞭な類円形の暗赤色紅斑が出現した。以前にも同じ薬で同様の症状がみられた。

この疾患について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 視力障害を伴う。
 - b 水疱を生じる。
 - c 軽快後は速やかに消失する。
 - d 口唇、外陰部等粘膜にも生じる。
 - e スクラッチテストが有用である。
- 26 45歳の女性。1か月前より両眼の視力低下を自覚し来院した。視力は両眼ともに0.1(0.8×-3.0D)と軽度低下していた。眼球運動および対光反応は正常であった。豚脂様の角膜後面沈着物および前房内に炎症細胞を認め、眼圧は両眼ともに23mmHgであった。全身検査では、胸部エックス線撮影にて両側肺門リンパ節の腫脹を認めた。

この患者について、正しいのはどれか。

- a Angiotensin Converting Enzyme (ACE) 値が低下する。
- b 眼圧上昇に対し、塩酸ピロカルピン点眼薬を処方する。
- c ツベルクリン反応は強陽性である。
- d 非肉芽腫性のぶどう膜炎である。
- e 雪玉状の硝子体混濁を認める。

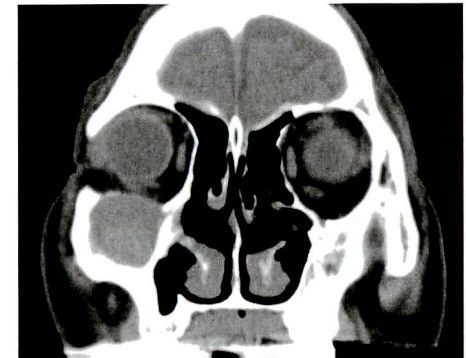
- 27 78歳の男性。数年前から時々右頬部の圧迫感や鈍痛があった。2日前より右顔面が腫脹したため受診した。前鼻鏡所見は術後と思われる変化以外に異常は見られなかった。副鼻腔単純CT水平断(A)と前頭断所見(B)を示す。

診断はどれか。

- a 上顎洞癌
- b 慢性副鼻腔炎
- c 菌性上顎洞炎
- d 術後性上顎嚢胞
- e 真菌性副鼻腔炎



副鼻腔単純CT水平断 (A)

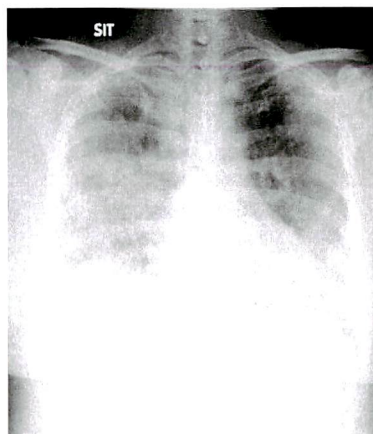


前頭断所見 (B)

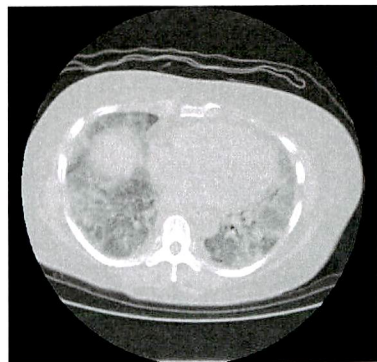
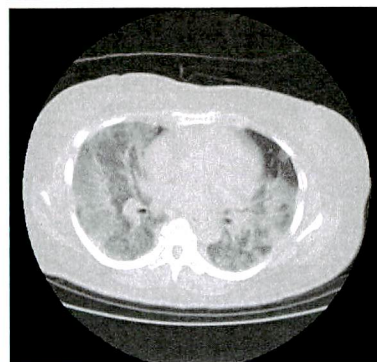
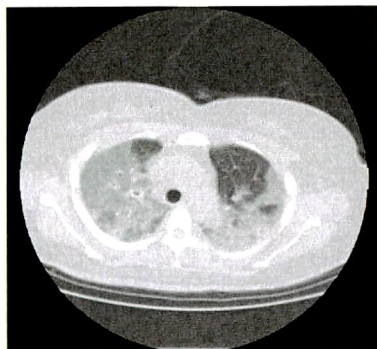
28 42歳の女性。3年前から糖尿病を指摘され、インスリン治療を受けていたが血糖コントロールは極めて不良であった。10日前から右足趾に化膿性病変を生じ、切開排膿と抗菌薬投与を受けていたが改善せず、2日前に40℃の高熱とショック状態で緊急入院した。血液培養ではグラム陽性球菌が検出されたが、入院後の治療でバイタルサインは安定傾向にあった。入院時胸部エックス線写真は異常を認めなかったが、今朝より泡沫状喀痰と呼吸困難を訴え、チアノーゼを認めたため、酸素吸入を開始した。貯気バック付きマスクで10L/分で酸素投与しても、酸素飽和度は80%であった。呼吸数40回/分で努力性の呼吸をしていた。末梢血白血球数14,000/cmm、血小板100,000/cmm、FDPおよびFDP-Dダイマーの増加を認めた。胸部エックス線写真と胸部CTを示す。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 肺動脈楔入圧は上昇している。
- b 血清フィブリノゲンは低下している。
- c 動脈血炭酸ガス分圧は増加している。
- d 酸素流量をさらに増やすべきである。
- e PEEPによる人工呼吸管理の適応がある。



胸部エックス線写真



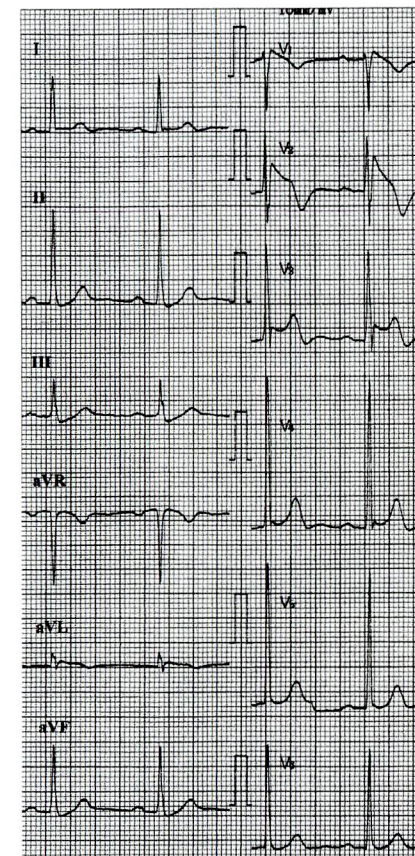
胸部CT

29 46歳の男性。現在まで健診などで異常を指摘されたことはない。午前3時頃、睡眠中に突然うめき声を発し、家人の呼びかけに反応しないため救急車を要請した。救急隊の到着時に、意識は回復していたが、救急外来へ搬送された。

来院時、意識清明、身長174cm、体重68kg、体温36.2℃、血圧126/78mmHg、脈拍 68拍/分、整、心音・呼吸音に異常なかった。来院時の12誘導心電図を示す。

意識消失発作時に生じていたと考えられるのはどれか。

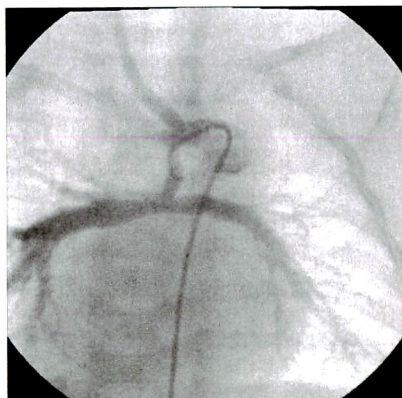
- a 完全房室ブロック
- b *Torsades de pointes*
- c 心室細動
- d 心タンポナーデ
- e 心室のびまん性壁運動低下



12誘導心電図

30 1か月の乳児。三尖弁閉鎖、肺動脈閉鎖に対する手術後の造影を示す。
正しいのはどれか。

- a 動脈管は開存している。
- b 行われた手術はGlenn手術である。
- c 動脈血酸素飽和度はほぼ100%である。
- d 上大静脈圧は通常、下大静脈圧より高い。
- e 胸骨右縁第2肋間を中心に連続性雑音を聴取する。



術後造影

31 62歳の女性。微熱と全身倦怠感があり来院した。2か月前に腸閉塞のために腹部の手術を受けた。眼瞼結膜に認められた出血斑を示す。聴診では心尖部に最強点をもつ4/6度の汎収縮期雑音を聴取した。血液所見：赤沈 50mm/1hr、白血球12,500（桿状核好中球10%、分葉核好中球66%、好酸球2%、単球4%、リンパ球18%）、CRP 11.8mg/dℓ。



眼瞼結膜に認められた出血斑

血液培養で予想される起炎菌はどれか。

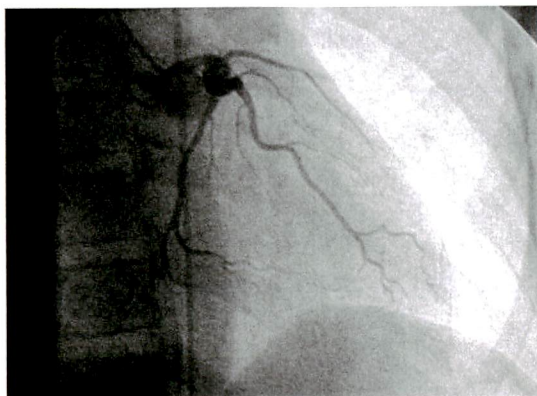
- a *Streptococcus pyogenes*
- b *Streptococcus pneumoniae*
- c *Enterococcus faecalis*
- d *Klebsiella pneumoniae*
- e *Pseudomonas aeruginosa*

32 14歳の男子。身長162cm、体重52kg。7歳時に発熱、リンパ節腫脹、イチゴ舌、眼球結膜の充血、発疹、手掌の発赤のため入院し、 γ グロブリン療法、ステロイドパルス療法にて軽快し退院したが、以後アスピリンとワーファリンの内服を続けていた。7歳時の心臓カテーテル検査所見を示す。

中学2年の夏休みに友人とサイクリングに出かけ、坂道登りの競争をしていたところ胸痛を訴えて転倒した。顔色不良、顔面は苦悶様で冷や汗をかいていた。意識消失はなかった。

正しいのはどれか。

- a 本症は男児の発症例が多い。
- b リンパ節腫脹は切開排膿で改善した。
- c 今回の胸痛と7歳時の入院歴との関連はない。
- d ワーファリンの副作用による頭蓋内出血が最も疑わしい。
- e 7歳の発症時にはBCG接種部位に発赤がみられた。



7歳時の心臓カテーテル検査所見

33 23歳の男性。自動車運転中トラックと衝突し搬送された。

来院時、発語はあるが、不穏状態で、呼吸数は30/分、呼吸音の左右差、皮下気腫は認められなかった。血圧は70/40mmHg、心拍数は160回/分であった。胸部に打撲痕があり、頸静脈怒張がみられた。明らかな外出血はなく、腹腔内に液体貯留は認めず、胸部、骨盤エックス線にも異常は認められなかった。

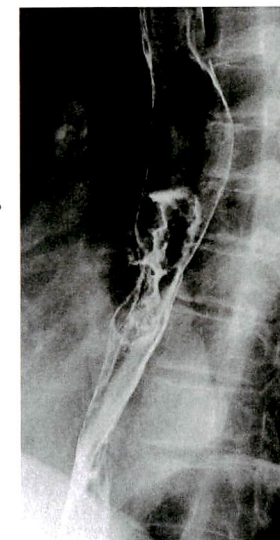
この患者に診られる身体所見として正しいのはどれか。

- a 片麻痺
- b 瞳孔不同
- c 心音低下
- d 胸郭動揺
- e 腹膜刺激症状

34 68歳の男性。嚥下困難と5kgの体重減少を主訴に来院した。精密検査後に根治手術が予定されている。食道造影写真を示す。

この患者で正しいのはどれか。

- a リンパ節郭清は行わない。
- b 手術は左開胸で行われる。
- c 気管膜様部への浸潤が考えられる。
- d 術後合併症として反回神経麻痺がおこりやすい。
- e 切除後の再建臓器として小腸が用いられることが多い。



食道造影写真

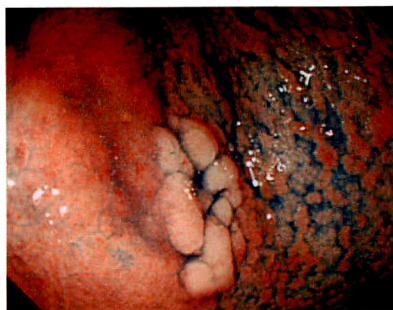
35 70歳の男性。市の胃がん検診で異常を指摘され、精査目的で上部内視鏡検査（図1、2）を行った。

正しいのはどれか。

- a 粘膜内にとどまるⅡa型病変胃癌の診断で内視鏡的粘膜切除術が推奨される。
- b MALTリンパ腫の診断でH.pylori除菌療法が推奨される。
- c Ⅱc型早期胃癌病変の診断で外科的手術が推奨される。
- d ボールマン1型の進行胃癌で外科的手術が推奨される。
- e 胃潰瘍の診断でプロトンポンプ阻害剤が推奨される。



上部内視鏡検査（図1）

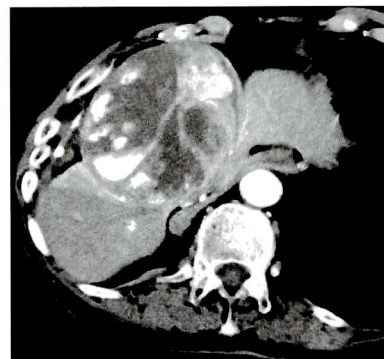


上部内視鏡検査（図2）

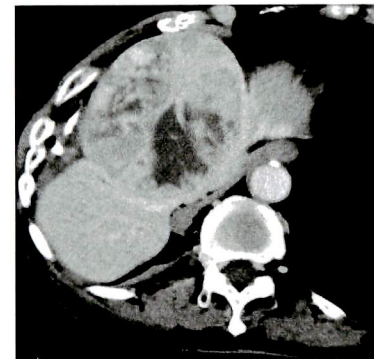
36 69歳の男性。近医にC型肝炎で通院していたが、腹部超音波検査で肝右葉に巨大肝腫瘍を認めたため当院紹介となった。当院受診時の腹部CT像（a, b）を示す。入院加療予定であったが、受診後10日後の朝、突然、右上腹部から背部にかけて激痛が生じ救急車で来院した。脈拍120/分、整。血圧90/50mmHg。意識清明。顔面蒼白。眼球結膜に軽度黄疸あり。腹部は膨隆し右季肋部に圧痛あり。反跳痛なし。肝、脾は触知せず。血液生化学所見：赤血球252万、Hb 8.8g/dl、白血球3,000、血小板7万。血清総蛋白6.0g/dl、アルブミン3.0g/dl、総ビリルビン2.5mg/dl、AST 120 IU/l、ALT 146 IU/l、LDH 580 IU/l（基準 106-220）、BUN 30 mg/dl、Cr 1.1mg/dl、 α -フェトプロテイン 280 ng/ml（基準 10 以下）、PIVKA-II 2,550 mAU/ml（基準 40 未満）。腹部超音波上腹腔内に液体貯留を認めたため試験穿刺を行ったところ血性腹水であった。

適切な治療はどれか。

- a 放射線療法
- b 経皮経肝胆道ドレナージ
- c 経静脈的化学療法
- d 肝動脈塞栓術
- e 肝切除術



腹部CT像（a）

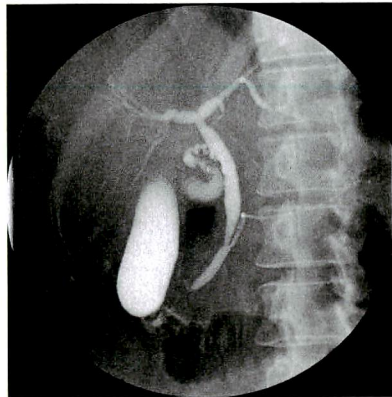


腹部CT像（b）

- 37 43歳の女性。検診にて胆嚢腺筋腫症を指摘され来院した。特に自覚症状はない。内視鏡的逆行性膵胆管造影写真を示す。総胆管の拡張は認めない。

治療として正しいのはどれか。

- a 経過観察
- b 胆嚢摘出術
- c 膵頭十二指腸切除術
- d ウルソデオキシコール酸の投与
- e 胆管切開Tチューブドレナージ



内視鏡的逆行性膵胆管造影写真

- 38 11か月の乳児。3日前から咳嗽を認めていた。正午ごろから機嫌が悪く、嘔吐するようになった。夕方から突然の悲鳴のような泣き声を周期的にあげるようになり、21時に粘血便を認めて救急外来を受診した。顔面蒼白で、元気がない。腹部触診で右上腹部にソーゼージ様の腫瘤を触知した。

診断に有用なのはどれか。2つ選べ。

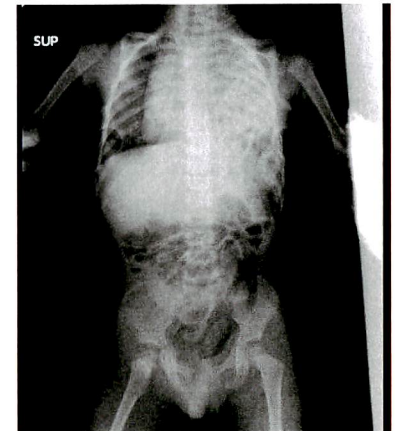
- a 便培養検査
- b 注腸造影検査
- c 腹部超音波検査
- d 下部内視鏡検査
- e 上部消化管造影検査

- 39 3歳の男児。三輪車で遊んでいて乗用車にはねられたのを母親が発見し、救急車で搬送された。意識は清明で激しく泣いている。体温35.6℃。呼吸数48/分。脈拍189/分、血圧120/65mmHg。全身に擦過創を認める。

検査所見：血液所見：赤血球344万、Hb 12.0 g/dℓ、Ht 38 %、白血球17,400、血小板32.2万。血液生化学所見：AST 67 IU/ℓ、ALT 54 IU/ℓ、ALP 1,308 IU/ℓ（基準 345～1,077）、尿素窒素 21 mg/dℓ、Cr 0.29 mg/dℓ。免疫学所見：CRP 0.6 mg/dℓ。動脈血ガス分析（自発呼吸、room air）：pH 7.276、PaO₂ 57 Torr、PaCO₂ 54 Torr、BE -3.4。直ちに撮影した胸腹部エックス線写真と胸部造影CTを示す。

治療として誤っているのはどれか。

- a 輸液
- b 酸素投与
- c 緊急手術
- d 左胸腔ドレナージ
- e 気管内挿管・人工呼吸



胸腹部エックス線写真



胸部造影CT

40 網赤血球が増加を示すのはどれか。

- a 急性白血病
- b 多発性骨髄腫
- c 再生不良性貧血
- d 骨髄異形性症候群
- e 遺伝性球状赤血球症

41 32歳の女性。全身倦怠感を主訴に来院した。意識は清明。身長155cm、体重45kg。血圧98/56mmHg。血液生化学所見：Na 142 mEq/ℓ、K 2.3 mEq/ℓ、Cl 88 mEq/ℓ、血漿レニン活性〈PRA〉8.2 ng/ml/時間（基準1.2～2.5）、アルドステロン 38 ng/dℓ（基準5～10）。動脈血ガス分析（自発呼吸、room air）：pH 7.52、PaO₂ 98 Torr、PaCO₂ 46 Torr、HCO₃⁻ 35 mEq/ℓ

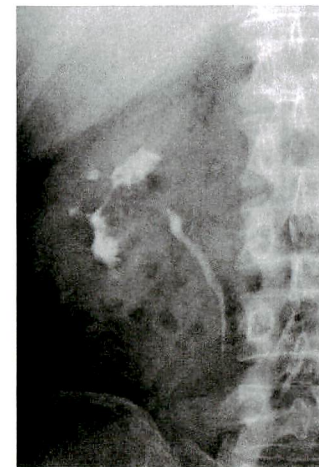
診断はどれか。2つ選べ。

- a 急性下痢
- b 習慣性嘔吐症
- c Gitelman症候群
- d 甲状腺機能低下症
- e 原発性アルドステロン症

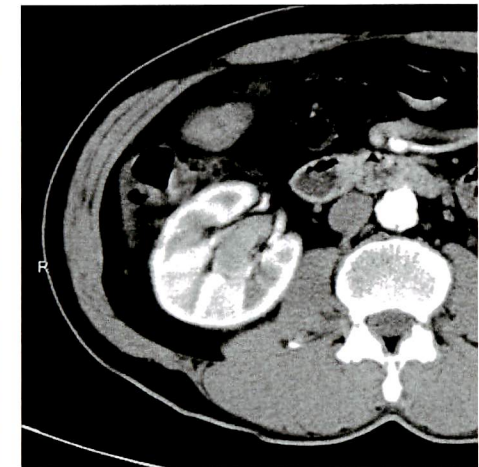
42 65歳の男性。無症候性肉眼的血尿を主訴に来院した。尿検査所見は蛋白（+）、糖（-）、潜血（+++）、尿沈渣は赤血球 多数/1視野、白血球3-5/1視野で、尿細胞診はClass IVであった。患者の経静脈的尿路造影写真および造影CT写真を示す。

正しいのはどれか。

- a 扁平上皮癌が最も疑われる。
- b 腎尿管全摘除術の適応である。
- c 早期から血尿を認めることは稀である。
- d 確定診断には経皮的針生検が有用である。
- e von Hippel-Lindau遺伝子の異常を伴うことが多い。



経静脈的尿路造影写真



造影CT写真

- 43 83歳の女性。2回経産婦。数年前より夕方になると鶏卵大の無痛性腫瘍を触れるようになり、最近腫瘍が大きくなったため来院した。外陰部の写真を示す。

この疾患で誤っているのはどれか。

- a 発生原因に老人性陰炎が関与している。
- b 不正出血の原因となる。
- c この疾患は新生児・幼児でも生じうる。
- d 高齢では陰閉鎖術を行う。
- e 子宮頸部延長症ではマンチェスター手術は行わない。

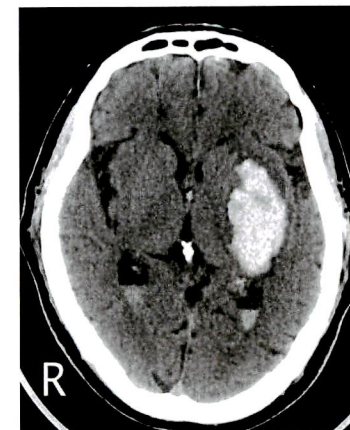


外陰部の写真

- 44 72歳の男性。朝食中に急に頭痛と右手の脱力が出現した。徐々に意識が低下したため救急車で搬送された。来院時血圧220/90mmHg。緊急で施行した頭部CTを示す。CT施行後も血圧は220/90mmHgであった。

この患者の収縮期血圧コントロールの目標値はどれか。

- a 140mmHg未満
- b 160mmHg未満
- c 180mmHg未満
- d 200mmHg未満
- e 収縮期血圧は下げない



頭部CT

- 45 75歳の女性。高血圧症にて服薬中。洞不全症候群のため3年前にペースメーカーをいれた。そのころから物忘れが気になるようになった。最近では日付がわからなくなり、約束を忘れてすることが多くなった。このため家族につれられ、外来を受診した。にこやかな表情でこちらの問いかけにはすぐ答えるが、内容は的外れが多い。一般的な身体診察では異常を認めなかった。

次に行う検査はどれか。

- a 脳波検査
- b 頭部MRI検査
- c 脳SPECT検査
- d 頸部超音波検査
- e 頭部単純CT検査

- 46 40歳の男性。腰痛と右下腿外側の痛みを主訴に来院した。2年前にも同じような症状があったが、腰痛としびれが主な症状であった。

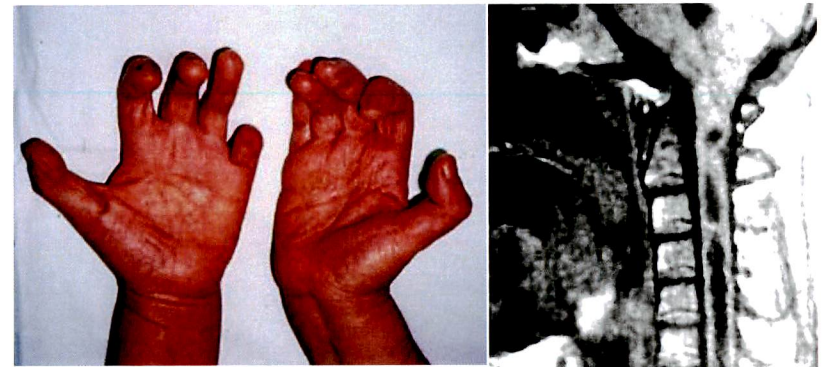
診断に最も有用な検査はどれか。

- a 筋電図
 - b 頭部MRI
 - c 腰椎MRI
 - d 大静脈造影
 - e 胸部単純C T
- 47 56歳の男性。昨日から右第1中足趾関節に発赤、腫脹、疼痛を認めたため来院した。高尿酸血症を認め、痛風と診断した。

本疾患の急性期治療の第一選択として正しいのはどれか。

- a 抗菌薬
- b 非ステロイド抗炎症薬
- c 尿酸降下薬
- d 尿アルカリ化薬
- e 副腎皮質ステロイド

- 48 35歳の女性。次第に進行する両手の運動時の拙劣感で来院した。神経学的に両手の骨間筋の萎縮と手指の変形を認めた(図)。MRI T1強調像(矢状断)を示す。



図

本患者で高頻度に予測される神経学的所見はどれか。

- a 小脳失調
 - b 嚥下障害
 - c 両上肢温痛覚鈍麻
 - d 両下肢筋萎縮
 - e 排尿障害
- 49 1歳7か月の女兒。1歳6か月児健康診査で両側乳房の腫大を指摘され来院した。在胎40週、正常分娩で出生した。出生時の身長50.9cm、体重3,150g。頸定4か月、坐位8か月、ひとり歩き15か月。身長76.1cm、体重10.2kg。外表奇形は認めない。心肺に異常はない。腹部は平坦で、肝・脾は触れない。乳房の腫大はTanner分類のII期に相当する。陰毛と初経は認めていない。

まず行うのはどれか。

- a 頭部単純MRI
- b 腹部超音波検査
- c LHRH負荷試験
- d 乳房エックス線単純撮影
- e 手根骨エックス線単純撮影

50 32歳の女性。体重の増加と皮下出血を主訴に来院した。

身長155cm、体重70kg。血圧154/90 mmHg、脈拍84回/分。

顔面は満月様で瘰癧があり、野牛様背こぶを認める。腹部には赤色線条があり、多毛である。爪白癬がある。

WBC 11,000、RBC 386万、PLT 21万、空腹時血糖 210mg/dℓ、TP 8.8g/dℓ、BUN 19 mg/dℓ、Cr 0.8 mg/dℓ、AST 22 IU/ℓ、ALT 18 IU/ℓ、ALP 322 IU/ℓ、CK 77 IU/ℓ（基準44～170）、Na 144 mEq/ℓ、K 3.3 mEq/ℓ、Cl 99 mEq/ℓ、Ca 10.0 mg/dℓ、総コレステロール 330 mg/dℓ。

行うべき検査はどれか。

- a 高張食塩水試験
- b ACTH連続刺激試験
- c デキサメタゾン抑制試験
- d 立位フロセミド負荷試験
- e 75 g 経口ブドウ糖負荷試験

51 24歳の男性。定期健診で異常を指摘された。身長176 cm、体重65 kg。血圧120/76 mmHg、脈拍64回/分。診察上心肺腹部に異常所見なし。眼瞼黄色腫とアキレス腱の肥厚を認める。血液生化学所見（空腹時）：総コレステロール 374 mg/dℓ、中性脂肪 86 mg/dℓ、HDLコレステロール 40 mg/dℓ。尿所見は異常なし。

この疾患について適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 常染色体優性遺伝がみられる。
- b 糖代謝異常が高頻度に見られる。
- c 空腹時に採血した血清が白濁する。
- d 低比重リポ蛋白（LDL）が減少する。
- e 若年者でも心筋梗塞を起こしやすい。

52 1歳の男児。在胎39週、出生体重3,004g、周産期異常はなく、新生児マススクリーニング検査も正常であった。母乳栄養児である。

今回発熱なく、突然全身性強直間代性痙攣を認め精査のため入院となった。

入院時の血液検査で、血清アルカリフォスファターゼ 2,190 単位、血清カルシウム 7.5 mg/dℓ、血清リン 2.5 mg/dℓで、エックス線単純撮影で尺骨骨端部杯状変形を認めた。

診断のために有用でないのはどれか。

- a 血清マグネシウム値の測定
- b 血清コルチゾール値の測定
- c 母乳と離乳食の栄養摂取量の確認
- d 血清ビタミンD値（25（OH）D3値）の測定
- e 室内での遊びか、外遊びをしているかの生活状況の確認

53 40歳の女性。発熱、咳、喀痰を主訴に来院。数年前より時々喘鳴を自覚していた。2週間前より38℃の発熱があり、咳と少量の膿性痰を認める。右肺でwheezesを聴取する。血液所見：白血球 21,000（好中球28%、好酸球52%、単球5%、リンパ球15%）、IgG 1,450mg/dℓ（基準960～1,960）、IgM 353mg/dℓ（基準35～350）、IgE 662 IU/ml（基準250以下）。胸部エックス線写真にて右上肺野に浸潤影を認める。喀出された錆型様の栓子から*Aspergillus fumigatus*が同定された。

この疾患について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a II型アレルギー反応が関与する。
- b 胸部CT検査で真菌球を認める。
- c 胸部CT検査で末梢性気管支拡張像がみられる。
- d 胸部エックス線検査で浸潤影に移動性が見られる。
- e *Aspergillus fumigatus*に対する血清沈降抗体が陽性。

54 20歳の男性。数年前から春先に鼻汁、鼻閉、くしゃみを繰り返すようになった。

この疾患でみられないのはどれか。

- a 膿性鼻汁
- b 即時型過敏反応
- c スギ特異的IgEの上昇
- d 肥満細胞の脱顆粒現象
- e 鼻汁中の好酸球の増加

55 72歳の男性。1か月前から強い倦怠感と筋力低下を自覚していた。2週間より皮疹が出現してきたため受診した。顔面の浮腫と上眼瞼の紫紅色紅斑、両手指関節背面に鱗屑を付着する紅斑、背部に引っかかり傷のような線状の紅斑を認めた。WBC $5,800/\mu\ell$ 、RBC $408 \times 10^4/\mu\ell$ 、PLT $15.2 \times 10^4/\mu\ell$ 、AST 76 IU/ℓ、ALT 24 IU/ℓ、LDH 1,114 IU/ℓ (230-460)、CK 1,094 IU/ℓ (57-197)、CRP 0.4mg/dℓ (<0.2)、IgG 1,470mg/dℓ、抗核抗体 80倍 (40倍未満)、抗Jo-1抗体陽性、筋電図 筋原性パターン

この疾患について正しいのはどれか。

- a 小児にはみられない。
- b 若年女性に最も多くみられる。
- c 筋力低下は近位筋優位である。
- d 悪性腫瘍の合併を約70%に認める。
- e 間質性肺炎の予後は良好である。

56 18歳の女子。8日前からの発熱、咽頭痛および倦怠感を主訴に来院した。鼻汁、鼻閉および咳はない。両側の口蓋扁桃は著しく腫脹し白苔が付着。両側後頸部リンパ節腫脹を認める。皮疹はみられない。血液検査で白血球13,100、異型リンパ球38%。

この患者に診られる所見はどれか。

- a 脾 腫
- b 皮下結節
- c イチゴ舌
- d Koplik斑
- e 斑状毛細血管拡張

57 3歳の男児。胸部に発疹が出現したため受診した。体温37.8℃、鼻汁や咳嗽はなく、口腔粘膜にも異常は見られない。発疹所見を示す。

正しいのはどれか。

- a 肺炎を合併しやすい。
- b 成人には感染しない。
- c 小児期に定期予防接種がある。
- d 抗ウイルス薬の投与が有効である。
- e ポピドンヨードによる手洗いが感染予防になる。

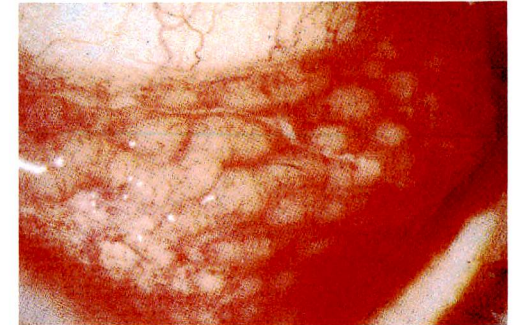


発疹所見

58 21歳の男性。1か月前より左眼の眼脂、充血を主訴に来院した。1週間前から徐々に増悪している。視力低下は認めない。下眼瞼結膜の前眼部写真を示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 細菌性結膜炎
- b 流行性角結膜炎
- c クラミジア結膜炎
- d ヘルペス性結膜炎
- e アレルギー性結膜炎



下眼瞼結膜の前眼部写真

59 50歳の男性。2週間前に作業中に足底に古釘が刺さったが特に治療をしなかった。1週間前から開口障害、肩や首のこわばりが出現し次第に強くなってきたため来院した。顎関節部に疼痛と腫脹を認めない。また咽頭には異常を認めない。本日は体温37.2℃。白血球7,300、血清アミラーゼは正常値。CRP 2.8mg/dℓ。

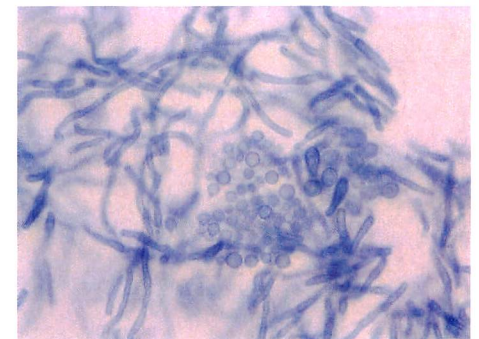
診断として考えられるのはどれか。

- a 破傷風
- b 顎関節症
- c 三叉神経痛
- d 流行性耳下腺炎
- e 副咽頭間隙膿瘍

60 16歳の男子。柔道部に所属している。1週間前より前胸部の皮膚がところどころ色が白く抜けてきた。痒みはなく、白く抜けた部分をこすると細かい落屑を認める。バーカー-KOH法で図のような所見が得られた。

治療方法として適切なのはどれか。

- a 光線療法
- b 抗生物質内服
- c 液体窒素療法
- d 抗真菌薬外用
- e 副腎皮質ステロイド薬外用



バーカー-KOH法所見